

## トピックス

「第19回医薬品産業労使懇話会」が7月26日に、アステラス製薬本社ホールにおいて、今年も開催されました。製薬協と医薬品産業労働組合連盟(医薬品連盟)は、医薬品産業発展のために、労使共通のテーマについて、相互の立場からの政策提言に資することを目指して、1994年から労使懇話会を毎年開催、今回で19回を迎えることができました。

医薬品連盟からは、榎本会長ほか役員23名が出席し、製薬協からは、伍藤理事長ほか事務局役員・関係部長、医薬産業政策研究所所長・研究員および関係委員会委員長、企画政策会議委員代表の27名が出席しました。

## はじめに

製薬協は、今年度の重点課題として、「医薬品の価値が的確に反映される薬価制度改革の実施」、「研究開発基盤、臨床研究体制の一層の整備及び審査の促進」、「国際連携、国際協力のさらなる推進」、「国民・患者への貢献、経済成長への寄与等製薬産業に対する理解の促進」の4つの課題を掲げ、「世界の人々の健康と福祉に貢献する産業」、「日本の経済成長に貢献する産業」を目指して、関係省庁への政策提言や、広く国民に向けた広報活動を行っています。一方、医薬品連盟も、4月に「ドラッグ・ラグ」をテーマとした政策シンポジウムを開催するなど、労働組合の立場からの産業政策活動に取り組んでいます。

今回の懇話会においては、医薬品産業政策への両者の取り組みおよび共通課題を中心テーマとして、それぞれの報告をもとに、積極的な意見交換が行われました。

製薬協伍藤理事長、医薬品連盟榎本会長の挨拶の後、医薬品連盟からは、事務局長より最近の活動紹介として、連盟の概要・事業内容、政策シンポジウム、専門委員会(社会貢献委員会)・特別委員会の活動等について報告がありました。続いて、製薬協からは、事務局長より2011年事業方針・事業計画に則して最近の活動報告がありました。

## 医薬品連盟からの報告

引き続き、医薬品連盟より2つの報告がありました。

最初に、廣川副事務局長より、「MRの労働時間の実態について」の報告があり、その中で、「①MRの得意先深夜訪問が常態化しているという事実は認めら



会場風景

れなかった。②外勤・内勤を含めたMRの労働時間は明らかに長時間であったが、この傾向は、企業の大小、専業・兼業にかかわらず共通として認められた。③各企業の労使間において、特に内勤業務の効率化など、労働時間短縮に向けた取り組みをさらに強化していく必要がある。④今後、MRの働き方が変化することは確実であるが、MRの長時間労働を業界全体の問題として製薬協にも認識を持っていただきたい」との報告と提案がありました。

2つ目は、原田幹事より、「女性MRについて」と題し、女性MRの離職率等に関する現状調査の結果報告がありました。その中で、「以前に比べて女性MRの離職率は改善し、マネージャー数も若干増加している。また、仕事と生活(結婚・出産・育児)を両立している女性MRも増加している」との報告があり、会社が支援制度を充実させ、女性MRが仕事と生活の両立を図っていく中、今後はダイバーシティー・マネージメント<sup>1)</sup>等の新たな課題に直面するとの今後の課題の提案がありました。さらに魅力ある産業にす

## 【開 会】

挨拶 日本製薬工業協会	理事長	伍藤 忠春
挨拶 医薬品産業労働組合連盟	会長	楢本 雅史

## 【最近の活動紹介】

1. 医薬品連盟の最近の活動紹介	事務局長	橋本 武士
2. 製薬協の最近の活動紹介	事務局長	石井 誠司

## 【医薬品産業政策の取り組みについて】

## (医薬品連盟)

3. MRの労働時間の実態について	副事務局長	廣川 暢幸
4. 女性MRIについて	幹事	原田 功貴

## (製薬協)

5. 透明性ガイドラインとコンプライアンスについて	専務理事	川邊 新
6. 医療イノベーションについて	医療イノベーション推進タスクフォースリーダー	加茂谷佳明
7. 東日本大震災関連について	専務理事	仲谷 博明

## 【懇親会】

乾 杯 日本製薬工業協会	専務理事	川邊 新
閉 会 医薬品産業労働組合連盟	副会長	杉浦 朗

るためにも、製薬協において、現状調査の実施を含め、今後検討していくことになりました。

- 1) ダイバーシティー・マネジメント…多様な人材あるいは人材の多様性(ダイバーシティー)を生かすことができる組織を構築すること。

### 製薬協からの報告

続いて、製薬協より3つの報告がありました。

最初に、川邊専務理事より「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」について、策定の背景、必要性、目的、公開方法、公開時期、公開対象等の説明がありました。また、2011年4月に作成した「再発防止プロジェクトチーム報告書」をもとに、コンプライアンス推進のための製薬協、会員会社のそれぞれの取り組み、制度理解のための、医療機関、関連団体への理解活動状況についても報告がありました。報告の後、「各社で過度な温度差(格差)が生じることが危惧されるので、全会員会社が、制度の趣旨を理解し、取り組むことこそが、業界全体の社会からの信頼向上につながる」等の熱心な意見交換がありました。

2つ目は、医療イノベーション推進タスクフォース加茂谷リーダーより、本年6月に開催された医療イノベーション会議の内容について、医療ニーズの状況、日本の製薬業界の状況、医療イノベーション実現のための課題、これまで進められている取り組み、医療イノベーションの目標、医薬品分野の検討事項、

横断分野の主な検討事項など、医療イノベーションの目指す方向性についての報告がありました。

これを受け、「医療イノベーション推進室からの提案には、製薬協の提言がどのように反映されているのか」、「医療経済的アプローチなど医療保険制度の見直し」、「中学校等の学習指導でのくすりの大切さ、知識の習得に加え、適切な選択と適正使用につながるための情報提供などが必要ではないか」等の、多くの質問、意見交換がありました。

最後に、仲谷専務理事より「東日本大震災」時の製薬協の対応と反省点について、製薬企業の被災と医薬品の安定供給問題、被災地への緊急医薬品提供対応、節電対策等について報告がありました。

### 懇親会

会議後の懇親会において、川邊専務理事より、「本懇話会も今回で19回を迎え、本日も、われわれが抱えている主要課題を中心に、医薬品産業政策への両者の取り組みおよび共通課題を中心テーマに報告をいただき、積極的かつ真摯な意見交換が行われました。労使が、常に国民・患者目線を持って、わが国の医薬品産業をめぐる政策実現に向かって、今後とも問題意識を共有し、論議をお互いに深め、建設的な意見交換をしていきたい」との挨拶がありました。その後、杉浦医薬品連盟副会長のご挨拶で閉会するまで、率直な意見交換をすることができました。

(事務局長 石井 誠司)